

#015

2020 Autumn

【 えっと 】

広島県

医師として広島県を
“えっと”楽しむマガジン

ETTO



特集

臨床研修の現場を訪ねて 学びの場 2020

～ 初期臨床研修医と指導医が語る自院の研修の魅力 ～

広島県地域医療支援センター
(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)
が発行する、

医学生・研修医・若手医師に
広島県の医療をPRするための
広報冊子です。

今号は、広島県の3つの研修病院に密着し、
研修医と指導医に自院の研修の魅力を
語っていただきました。



自由度の高いプログラムで
 個々の希望に応える研修を

中国労災病院

JR広島駅から快速列車で40分、新広島駅からすぐの場所にある「中国労災病院」。
 呉市の東側の医療圏を支える中核病院として、
 1次から3次まで幅広い疾患を受け入れる救急体制に強みがあります。
 年間約15,000人の救急患者に対応しています。



体験しながら学ぶ 実践型の研修

中川：当院の大きな特徴は救急診療に力を入れていること。研修医の二人も、半年間でさまざまな経験を積んでいるんじゃないかな。

三村：私がこの病院での研修を希望したのも、救急対応がしっかりできるようになりたいと思ったからです。救急科の当直ではファーストタッチは研修医がするなど、自分の体を動かしながら学べる環境なのが、私には合っていました。

濱田：僕の場合は、学生のときに見学に来て、実際に働いている研修医を見たことが決め手になりました。上級医の指導を受けながら、どんどん診療をされている姿がすごくいいなと思って。

中川：指導医がしっかりフォローしているから、研修医が積極的に治療できるんだよね。



中川 五男 先生

Itsuo Nakagawa
 副院長
 救急部 部長



藤原 久也 先生

Hisaya Fujiwara
 産婦人科 部長
 初期研修管理委員会 委員長



三村 藍加 先生

Aika Mimura
 産業医科大学卒
 初期研修1年目



濱田 純 先生

Jun Hamada
 富山大学卒
 初期研修1年目

濱田：その安心感があります。僕は広島県医師育成奨学金を利用してあるので、学生の頃から「広島地域の医療に貢献したい」と思っていたんです。ここでの研修を通してそれが実践できていると感じます。

中川：当院がカバーする呉市は、人口15万人以上の都市で最も高齢化率が高い地域。だから高齢者の救急搬送も多いよね。軽症の患者さんから意識がないような重症例まで、あらゆる症例に対応できるように思うよ。

三村：医師になったからには、目の前で人が倒れているときに何もできないことがないようにしたい。いざというときに動ける医師になりたいです。だからこの先、自分の専門分野を決めるにしても、最低限の救急スキルは身につけておきたいと思っています。

中川：当院が積極的に救急搬送を受け入れられるのは、各診療科のバックアップがあるからこそ。多発外傷



救急医療の基本が2年間のうちに確実に習得できる

などでは、各診療科の医師たちが集合して非常に良いチームワークを發揮します。

藤原：院内の連携がいいのはうちの強みですよ。医師同士もそうですし、コメディカルや事務スタッフとも協力し合える関係。「患者さんのために何をすべきか」を、みんな考えながらやってくれています。

中川：そうしたコミュニケーションの良さは、地域の他の病院やクリニックの先生方、介護施設のスタッフさんたちとも、連携の輪が院外にも広がっていますね。

自由なプログラムでやる気をサポート

藤原：今年の4月から初期研修管理委員会の委員長として、研修プログラム

ムの作成に関わっていますが、まず目標にしたのが研修内容を充実させること。研修医たちの意見を聞きながら、自由度の高いプログラムを実践しています。

濱田：僕たち研修医がやりづらいうところがあれば、すぐに改善してもらえるのでありがたいです。委員会には1年目、2年目の研修医の代表が参加していて、そこで要望を伝えることができます。

藤原：新たに変えたのは、ローテーションする診療科と時期を、個々の希望に応じてフレキシブルに選択できるようにしたところ。これまでは2年目になってからしか回れない診療科があったのを、自由に選べるようにしました。1年目のうちから、将来を見据えて専門科を学びたいと希望する研修医も多いからね。

濱田：研修の進み具合をきめ細かく見てもらえるのも嬉しいですよ。

藤原：委員会のメンバーの一人が研修医の担当になり、希望を聞いたり、カリキュラムの進捗状況を確認したりしているよね。研修医の数が多くても、一人ひとりに目が行き届くようにしているんだ。

三村：当直に入る回数を研修医が自分で調整できるのも、ここならではのよね。症例をたくさん診たいと思えば当直を多く入れて、数をこなすことも可能です。

藤原：それぞれの意思を大事にしたいと思っているからね。スキルを身に

つけて専門医になりたい、留学をしたい、論文を書きたい……、10年後にどんな医師を目指すかによって研修期間の過ごし方は変わってくるはず。

濱田：やる気があれば、それを応援してもらえる環境ですよ。研修医2年目の先輩とペアを組むメンター制をとっているのも、何かあればいつでも気軽に相談できます。

三村：そうそう。「次に回る診療科ではどういう勉強をしておけばいいですか?」とか、些細なことでも聞きやすいよね。優秀な先輩ばかりで、質問すると納得できる答えが返ってくるから心強いですよ。

手技を磨きながら成長が実感できる

中川：三村先生と濱田先生は、半年の研修期間でずいぶんしっかりしてきたよね。自分でも力がついてきたのが分かるんじゃないかな。

三村：私は最初に当直に入ったのが6月で、その時についてくれた上級医

の先生と最近また一緒に担当する機会があったのですが、「すごく変わったね!」と。成長できたのかなと、とても嬉しかったですね。

濱田：僕は外科系から研修をスタートさせたのですが、手技が身につけてきたのを感じます。どうしても研修医が「見ているだけ」になってしまいう病院が少なくないなかで、ここでは自分で体験できるのでやりがいがあります。

中川：二人とも本当によくやってくれているね。その調子で頑張ってもらいたいな。

三村：とにかく手を動かして、体を動かして、しっかり勉強しながら研修をしたいという学生さんには、ぜひ当院をおすすめしたいです。

濱田：それに地域医療に携わる医師を目指す学生さんにもぴったりだと思います。

藤原：そうだね。初期研修の2年間は大切な期間だから、有意義に過ごしてもらいたいな。私たちはそのサポートをしていくつもりです。



独立行政法人労働者健康安全機構

中国労災病院

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1
TEL: 0823-72-7171 FAX: 0823-74-0371
E-mail: kenpro@chugoku.johas.go.jp

Hospital Director:
栗栖 薫

- 病床数: 410床
- 指導医: 43名
- 初期研修医: 10名



<https://www.chugoku.johas.go.jp/>



病院全体で研修医を育てる
 しっかり力が身につく環境

尾道市立市民病院

一年を通して温暖な気候で、海と山の美しい景観が広がる尾道市。
 JR尾道駅から車で15分の場所にある「尾道市立市民病院」では、
 今年一人の研修医を受け入れ、診療科の垣根を超えた丁寧な指導を行っています。



開原 正展 先生
 Masanobu Kaihara
 内科 診療科長



玉山 優 先生
 Yu Tamayama
 広島大学卒
 初期研修1年目



きめ細かい指導で
 研修医を温かく見守る

開原：玉山先生は半年の研修期間を終えてみて、どんな印象かな？

玉山：これまでに内科と麻酔科、救急科を回って、今は消化器内科で研修を受けているところなのですが、どの科の先生たちも優しく、年が離れたベテランの先生たちにも、分からないことを気軽に質問できるの

で、とてもやりやすいです。有意義な研修になっています。

開原：ローテーションする診療科にかかわらず、病院全体で研修医を育てていくという文化がうちにはあるから。全員が指導医みたいなものだよね。

玉山：まだ回っていない診療科の先生でも声をかけてくださいます。
開原：研修医が一人だから、すぐに顔を覚えてもらえるんだ。

玉山：もうほとんどの先生とお話できたと思います。麻酔科では気管挿管をさせてもらったのですが、とにかく時間さえあればやらせてもらえるので、多くの症例を経験できました。難しい症例のときにはすぐに指導医の先生に助けを求めますし、手技が身につくまでしっかりサポートしてもらえるので、安心して学べました。

開原：研修医が多い病院だと症例の取り合いになってしまうこともあるけれど、ここでは独り占めできるから、短い期間でも多くの経験を積むことができる。内視鏡の手技を身につけたければ、研修中に100例以上はできるはず。過去には数百例やった研修医もいるよ。

玉山：そんなにできるんですね。

開原：やる気があれば、私たちはいくらでも応えていきたいと思っているからね。

玉山：それは本当に嬉しいです。看護師さんや検査技師さんたちも親身になって教えてくれて、皆さんが応援してくれているのを感じます。

患者との触れ合いから
 学ぶことも多い

玉山：開原先生の専門でもある内科研修では、入院患者さんを担当させてもらえたことがいい経験になりました。

開原：毎日、病棟を回って患者さん



「開原先生には何でも相談できる」と玉山先生。二人の会話は常に笑いが絶えない

たちと話をしていたよね。

玉山：最初に担当した患者さんにご挨拶に行ったとき、「声が小さい！」と言われてしまつて……。

開原：たしか難聴の方だったよね。

玉山：はい。それからは他の患者さんを気にすることなく、大きな声で話しかけるようにしました。すると今度は、僕のことを孫のように思ってくれるようになって。回診に行くとお、「おお、来たか」と喜んでくださいます。

開原：玉山先生は雰囲気様がやかだ

から、患者さんたちも話しかけやすいと思う。しつかり話も聞いてあげると、そういう良いところはどんどん伸ばしていつてほしいな。

玉山：その患者さんからは、「よく声が出るようになったから、いい医者になるぞ！」って言ってもらえた(笑)。患者さんとのコミュニケーションという、医師として大切な部分を最初に学べたのはとても良かったです。

開原：うちでは4月の時点で2年間の研修プログラムを決めずに、まず半年分だけ組むようにしているんだけど、それは研修をしていくうえで興味を湧かせることや、深めたい分野に柔軟に対応できるようにと考えてのことなんだ。玉山先生は来年、整形外科を集中的に回りたいと希望していたよね。

玉山：はい。整形外科医になりたいと思っているので、研修期間を長めにする予定です。僕自身、よくケガをしていたこともあって、患者さんのQOLを上げる役に立ちたいなと。
開原：尾道は高齢者が多い地域だから、整形外科のニーズは高いよね。救急症例も多く受け入れているから勉強になると思うよ。

玉山：救急科の研修でも、骨折の患者さんは多かったです。その時は、「整形外科の先生が一緒に手術しよう」と声をかけてくださって、各科が協力しながら患者さんを診るチーム医療も実感できました。

開原：救急で運ばれてくるのは、さまざまな疾患を併発していたり、背景もそれぞれ違う患者さんたちだから、何か隠された病気はないかを多面的に診る力が求められるんだ。

研修では、ぜひそうした診断力を身につけてほしいな。

玉山：はい。専門分野に進むにしても全身管理は大事なことで、各診療科を回りながらしつかり学んでいきます。

これからの地域医療で求められる医師に

開原：尾道は、全国でもいち早く病診連携のカンファレンスを取り入れた地域。退院時にはご紹介くださった開業医院の先生や介護スタッフさん、当病院のスタッフが集まり、患者さんについて話し合う場を設けているんだ。もう10年以上前からやっている取り組みだよ。

玉山：介護・福祉分野とのつながりが緊密なんですね。

開原：地域で患者さんを診ていくためには連携は欠かせない。カンファレンスでは質問を受けることもあるから、そうした対応を学べるのも研修医にとっては強みになるんじゃないかな。

玉山：患者さんとの距離感も近いですし、地域に密着した医療を学びたいという学生さんは、ぜひ当院に見学に来てほしいです。

開原：これからの地域医療で求められるのは、「地域のために役に立ちたい」「この地域が好き」という強い思いのある医師だと思う。そういう志のある先生に来てもらいたい。大勢で賑やかな研修を受けたいという人向きではないけれど、落ち着いたじっくり取り組みたい人にはおすすめです。

玉山：僕にはぴつたりでした！

開原：尾道はしまなみ海道や風情豊かな坂道など、周辺の環境にも恵まれているから、研修を通して、そうしたこの地域の魅力も味わってもらえるといいな。



尾道市立市民病院

〒722-8503
広島県尾道市新高山3-1170-177
TEL: 0848-47-1155 FAX: 0848-47-1004
E-mail: byoin@city.onomichi.hiroshima.jp

Hospital Director:
大枝 忠史

- 病床数: 290床
- 指導医: 17名
- 初期研修医: 1名



<http://www.onomichi-hospital.jp>

マンツーマンの指導で
 患者に寄り添う医療を実践

福島生協病院

広島市西区にある「福島生協病院」は、急性期治療を終えた患者さんがスムーズに自宅や施設へと戻れるように、介護・福祉分野へとつなぐ役割を担っています。
 地域住民から信頼されるかかりつけ病院として、「支える」医療を展開しています。



高岡 克寿 先生

Katsutoshi Takaoka

研修プログラム責任者
 内科部長



川本 一陽 先生

Ichiyu Kawamoto

島根大学卒
 初期研修1年目



佐藤 浩彦 先生

Hirohiko Sato

徳島大学卒
 初期研修1年目



時間的にも精神的にも
 ゆとりを持って学べる

高岡：二人が研修先として当院を選んできたのは、どんな理由からかな？

佐藤：僕は、少人数で時間にゆとりのある病院で働きたいと思ったのが理由です。大人数で競いながら学ぶのは、自分の性格には合わないな。ここは自分のペースでゆっくり学ぶことができるので、希望通りでした。
 川本：私も少人数の病院に絞って探しました。気管挿管やCVカテーテルなどの手技を習得するために、多くの症例を経験したいと思ったからです。

高岡：たしかに少人数ならではの研修のメリットがあるよね。

川本：はい。ローテーションで回っている診療科以外でも、珍しい症例があると電話がかかってきたり、朝のカンファレンスで「一緒に診てみない？」と言ってもらえたり、思っていた以上にたくさん経験させてもらっています。

佐藤：医局の雰囲気もとても穏やかで、上級医の先生たちの仲が良いのも特徴の一つ。僕たち研修医にも優しく教えてくださるので、とても充実した研修になっています。

高岡：研修ではマンツーマン制をとっているけど、二人にとってはどう？
 川本：指導医の先生に質問をするとすぐに答えてもらえて、勉強になり



ます。もちろん他の先生にも気軽に聞けますが、「誰に相談していいのかわからない」ということがないんです。

佐藤：僕はこの前まで消化器内科を回っていたのですが、内視鏡の手法をつきつきりで見てもらえました。上達するまでしっかりサポートしてもらえるのは嬉しいですね。

川本：そうした指導医とは別に、医師以外の職種でメンターがいるのも珍しいですね。
 高岡：研修医が何でも相談しやすい

ように、それぞれ適した人にメンターになってもらっているんだ。以前、子育て中の女性医師がいたときには、出産・育児経験のある女性の事務職員にメンターになってもらい、育児の悩みを聞くなど精神的なサポートをお願いしたことも。

佐藤：まだ相談はしていませんが、いざというときに話を聞いてもらえるメンターの存在は心強いです。一人で悩んで抱え込まずにすみそうです。
 川本：そういう制度があると安心できるよね。



時間外の業務指示や夜間の呼び出しがないので、研修医が自分の時間をコントロールしやすい

訪問診療を通して 患者の生活を知る

高岡…半年の研修を通して、二人は大きく成長できたんじゃないかな？
佐藤…僕は、手技や検査のときに患者さんへの声かけができるようになりました。患者さんは何をされるのかわからないと思うので、何のためにやるのか、どんな検査なのかを説明することで、少しでも安心してもらいたいです。

川本…私は患者さんとの話し方や、介護や福祉分野のスタッフさんたちとのコミュニケーションの取り方が身につけてきたと感じます。例えば「これは先に看護師さんに伝えておいた方がいいな」という優先順位も、自分で判断できるようになりました。
高岡…それは診療経験を積みながら見えてきたことだね。

川本…それと、当院では動脈採血は医師がしますが、私はちよつと不器用で…。最初の頃は脈を触れるのもなかなかできなかったのですが、今はすぐにとれるように。たとえ苦手なものでも粘り強くやらせてもらえますし、意欲を持って取り組みることができる実感できました。

高岡…2年次からは地域研修の一環として訪問診療も始まるね。患者さんのご自宅に伺うことはいい勉強になると思うよ。

佐藤…今から楽しみにしています。

高岡…患者さんの生活を見ることで、退院時の多職種カンファレンスのときに、どんな支援が必要かを想像できるようになる。それは病院で診療をするうえで強みになるはず。

川本…患者さんそれぞれの価値観や生活環境は違うので、それを実際に自分の目で見て、診療できるのは、貴重な経験になるでしょうね。

高岡…これから医師として活躍する二人には、疾患だけでなく患者さんが抱える問題も含めて、全体像を見

ながら適切な医療を提供できるようになってほしいな。

川本…一歩一歩、堅実に自分の技術を高めて、そうした患者さんの背景にも気を配れる医師になりたいです。

佐藤…僕もこの2年間で、患者さんの生活を把握しながら治療できるような力を身につけていきたいです。患者さんが元気に地域で暮らしているサポートができればと思っています。

高岡…当院は研修医だけでなく、中途採用の先生でも、県外から来てくださった先生でも同じように大切に、働きやすい病院だと思っています。じっくりと患者さんのことを考えながら研修をしたいという学生さんには、ぜひ一度見学に来てもらいたい。
川本…病院内のどこで誰が働いているか、スタッフたちの顔が見える関係なので、安心感や信頼感が生まれやすいですね。ここでの研修では、そうした小規模な病院ならではの良さを感じられると思います。



広島中央保健生活協同組合 福島生協病院

〒733-0024 広島市西区福島町1-24-7
TEL:082-292-3171 FAX:082-294-4551
E-mail:ikyoku@hch.coop

Hospital Director:
北口 浩

- 病床数:165床
- 指導医:34名
- 初期研修医:2名



<http://www.hch.coop/fukushima/>



院長・外科
北口 浩 先生
Hiroshi Kitaguchi

院長メッセージ

当院の周辺は広島市でも高齢化率の高い地域です。そのため治療を終えても、さまざまな事情からスムーズに自宅に戻るのが難しい方がたくさんいます。そうした患者さんたちの問題を、多職種スタッフとともに一つ一つ解決していくのが私たちの役割。これからの医師にはそうした連携の中心に立って、まとめていく能力が求められています。地域に根差した医療を肌で感じながら、アットホームな雰囲気ですべいたい研修医におすすめてです。



高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模もさまざまです。
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。



臨床研修病院合同説明会(レジナビフェア)などへの出展

広島県では、できるだけ多くの研修医に県内で臨床研修をしていただきたいと願っています。

県内の臨床研修病院が共同で、合同説明会「レジナビフェア」などに出席し、お揃いの真っ赤なベストで医学生の皆さんをお迎えしています。

充実した臨床研修を受けられる広島にぜひお越しください。



若手・女性・ベテランの活躍支援

県内で活躍する医師のためにさまざまな支援を行っています。

若手医師への医療機関の横断的な研修支援、女性医師への働きやすい勤務環境整備・復職研修支援・子育て支援、定年勤務医などへの求職支援など、やりがいを持って活躍できる環境づくりを進めています。



広島県での就業支援

広島県での就業をお考えの医師の方に、無料の職業紹介事業の許可を得て、UIJターンの支援をしています。

ウェブでの求人情報提供のほか、個別のご相談にも対応しています。経験豊かな医師やスタッフが在籍し、皆さまのご相談やご希望を伺っています。

具体的な時期が決まっていなくても構いません。お気軽にご相談ください。

地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター

広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保などのため、平成23年7月に設置された公的団体です。

わたしたちは広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解消のため、配置調整や医師確保、人材育成など総合的に取り組んでいます。

【お問い合わせ】

広島県地域医療支援センター

(公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構)

〒732-0057

広島市東区二葉の里三丁目2-3

広島県医師会館4階

TEL: 082-569-6491

FAX: 082-569-6492

E-Mail: iryou@hiroshima-hm.or.jp

<http://www.dn-hiroshima.jp>

